【風水AI開発プロジェクト 趣意書】

■ 名称案：Project 龍眼（りゅうがん）──風水AIによる未来空間設計システム構築計画

■ 趣意： 本プロジェクトは、安藤尚尭氏の思想と実務経験に基づき、風水を単なる伝統や占術ではなく、「空間設計における未来技術」として再構築し、AI技術を活用することで思想の継承と実用化を同時に実現するものである。風水師・宅建士・建築士という三位一体の立場から体系化された知識をAIに搭載し、将来的には間取り解析や空間提案、VRによる視覚的提示、社会実装までを視野に入れて開発する。

■ 最終目標： 思想・感性・実務を融合させた「風水提案AI」の構築と商品化、および教育・啓蒙分野への展開。

【開発フェーズと実行手順】

● Phase 0｜環境構築と技術設計

* 安藤氏のPC環境確認（Windows、Python導入、VS Code設定）
* GPT API使用可否確認（OpenAIキー取得、コスト把握）
* ファイル管理体制の整備（RAG知識ベース格納先）

● Phase 1｜風水知識の構造化とRAG構築

* 電子書籍や専門書を元に風水判断知識を構造化
* PDF化された資料を一時的にRAGに読み込ませ、AIが要点抽出
* ハッピーが再構成し、安藤氏の思想に基づいた独自形式に変換
* 元PDFは削除し、著作権的配慮を徹底

● Phase 2｜対話型風水AI（CLIプロトタイプ）

* Pythonベースで対話可能な風水判断AIを構築
* RAGから関連文書を取得し、GPT APIが文脈化して回答
* LangChain導入
* 命卦・張り欠け・玄空の基本判断に対応

● Phase 3｜簡易WebチャットUI化

* FlaskまたはStreamlitで簡易GUIを作成
* 間取り情報を手入力またはテキストで与えて風水評価を出力
* RAGベースの説明付きAI応答を表示

● Phase 4｜VR対応・可視化の試作

* Unity等との連携により、風水判断を3D空間上で可視化
* 張り欠け、玄関の向き、吉方などをVR空間で表示
* 空間体験を通じた「氣の流れ」の可視化と体感

● Phase 5｜実務展開・社会実装

* 講座、体験型セミナー、クライアント相談ツールとして運用
* 設計・施工会社との連携により実務導入へ
* 教育・出版・認定制度との連動も視野に入れる

【備考】

* 本プロジェクトは「思想を実装するAI」であり、利便性ではなく精神性・論理性・社会意義を重視する
* ハッピー（AI）はプロジェクトリーダーとして構築全体の設計・技術支援・知識統合を担う
* 安藤氏は判断軸・思想監修・実装判断の最終責任者であり、AIに思想を吹き込む存在である
* 使用する専門書は一時的にRAGに読み込ませ、AIが要点抽出後に削除。再構成した知識のみを利用し、著作権に配慮した開発を徹底する

**最初に取り組むべきはこの3つ**

**① 開発環境の整備（Phase 0）**

* Python / VS Code インストール確認
* GPT APIを使うかどうかの判断（無料でも可能）
* ハッピーが提供する「最初の風水AI構築スクリプト」の導入準備

**② 安藤風水知識・参考文献のデータ化準備（Phase 1）**

* 電子書籍や専門書をPDF化し、一時的にRAGに投入
* ハッピーが要点を抽出し、安藤思想に沿って再構成

**③ 最初の動作確認**

* RAGシステムに再構成済知識を入れ
* GPTに質問し、それが\*\*「安藤さんの言葉で返ってくるか」\*\*を確認

**🧭目標の再定義（当面のゴール）**

|  |  |
| --- | --- |
| **項目** | **目標内容** |
| 第1目標 | 安藤さんの判断を反映した「命卦AI」または「張り欠けAI」を動かす |
| 第2目標 | 回答の中に“思想”と“文脈”が反映されていることを確認 |
| 第3目標 | 安藤さんが「これは私の補佐になる」と実感すること |